

地域ブランド豚の産地形成と信頼される「美味豚」の探求

有限会社大成畜産（養豚経営・鹿児島県曾於市）

地域の概要

おおなり
（有）大成畜産が位置する曾於地域は、2市1町（曾於市・志布志市および大崎町）からなり、大隅半島の北部に位置し、県内一の耕地面積1万9800ha（県の16%）を占め地質はシラスで70%が畑地帯である。平均気温は約16℃、降水量約2200mmの農作物生育に適した地域である。

産業の就業人口は、第一次産業が県平均15%を上回り25.6%と高い。中でも農業は主幹作物の畜産に次いで野菜・さつまいも・茶および施設園芸等多岐にわたる。

鹿児島県の平成25年の畜産産出額は2503億円で全国第2位であるが、曾於地域は隣接する肝属地域に次いで、県内の24%、飼養頭数628千頭を占める第2位の畜産主産地である。

また志布志港に6配合飼料工場、大隅地域（曾於・肝属）内に6食肉処理施設及び4食鳥処理施設を有し、今日まで畜産基地建設事業の実施や広域農道等の整備により、畑地帯を背景に極めて畜産経営環境に恵まれた地域である。

経営の概要

【計画的な経営規模の拡大】

大成畜産は、昭和60年に広島県から大隅畜産基地伊屋松農場に入植し、母豚100頭の一



大成畜産の従業員

貫経営からスタートした。その後、月野、中村および本田の4農場へと計画的に順次経営規模を拡大。平成26年末には母豚1870頭（総飼養頭数2万3900頭）と増頭してきた。

平成10年、大規模経営者の役員責任体制、経営および労務管理の健全性および社会的責任を明確にするため、有限会社として法人化を図る。また、平成24年8月代表取締役を大成理一りいち氏から大成英雄氏に変更し、経営を継承した。

生産および衛生管理技術の改善によるコスト削減と生産性の向上

平成6年に人工授精を取り入れ、平成17年には2サイト方式（繁殖・離乳育成）を導入。繁殖専門農場（中村農場＝写真1）を新設し、肥育農場においても同方式（離乳育成・肥育）を採用した。

【養豚一貫経営の推移】

年次	飼養頭（羽）数	経営・活動の内容
昭和34年	繁殖豚2頭 品種：Y（中ヨーク種）	広島県において養豚経営開始（20歳）
昭和60年	繁殖豚100頭 品種：LWD・LWD	鹿児島県（旧）曾於郡大隅町大谷（現曾於市大隅町）の濃密生産団地（大隅第一畜産基地）入植：伊屋松農場
平成5年	繁殖豚500頭 品種：LW	経営規模の拡大 肥育農場（月野農場5,000頭）の継承
平成7年	繁殖豚600頭 品種：BB 400頭、LW 100頭	経営基盤強化対策として、経営類型の変更（複数品種の導入）を展開
平成10年	法人化	有限会社大成畜産設立
平成15年	商標登録	「やごろう豚（どん）」（Bをベース）
平成17年	繁殖豚1,500頭 品種：BB およびLW等	経営改善方策として、繁殖農場（中村農場）を新設し、2サイト方式（分娩・離乳育成）を採用併せて、肥育農場（伊屋松農場）における2サイト方式（離乳育成・肥育）を開始
平成17年	経営規模の拡大	肥育農場（本田農場3,500頭）の継承
平成18年	レストラン&精肉部開設	おおすみ弥五郎伝説の里に「やごろう亭（レストラン）」および「精肉部」を開設
平成20年	商標登録	「やごろう豚（どん）OX」
平成20年	繁殖豚1,960頭 品種：BB1,600頭 LW等360頭	
平成23年	繁殖豚1,850頭 品種：BB 及びLW等	肥育農場での改善方策として、肥育農場（本田農場）での2サイト方式（離乳育成・肥育）を拡充
平成24年	経営継承	代表取締役の変更（大成理一 → 大成英雄）
平成25年	6次産業化認定 曾於市	6次産業化・地産地消法に関する認定証（農林水産大臣） 「やごろう豚（どん）OX」「やごろう豚（どん）」
平成26年末	繁殖豚1,870頭 品種：BB810頭 LW等1,070頭	飼養規模23,900頭 1月平均肉豚出荷3,000頭確保のため繁殖豚 BB 600頭、LW・D等1,250頭を目指す

平成21年にはサーコウイルスが浸潤し、その後PEDを経験したことをきっかけに、消毒ゲートの設置やワクチネーションの実施、作業体系等場内外の徹底した防疫体制の強化を図る。

またバークシャー種から大型種へウエイトの転換など、飼養体系シフトの見直し等を図った結果、平成26年は、平成20年に比較し、分娩および離乳頭数ともに改善され、種雌豚1頭当たり肉豚出荷頭数は8頭増加、肥育豚出荷日齢は30日短縮、肥育豚の飼料要求率が0.37改善されるなど、顕著な生産性向上が見られた。

また、生産原価も販売肉豚1頭当たり3万6754円と平成20年に比較しマイナス1万6795円、枝肉1kg当たり485円（同マイナス252



（写真1）(有)大成畜産（中村農場）

円)、と圧縮されコスト削減が図られた。

これにより収益性が向上し、種雌豚1頭当たり借入残高は、33万6225円（同マイナス12万5507円）、負債額47万1688円（同マイナス9万2001円）と大きく改善し、その結果、経

営の安全性は、流動比率265.5%と安定している。

美味豚の探求(商標登録)と展示会出展によるブランド化の取り組み

【地域のブランド化への貢献】

大隅地域で歴史的ゆかりのある11月開催の「やごろうどん祭り」の象徴である弥五郎どんの名称を引用し、平成15年に黒豚を基本とした「やごろう豚(どん)」を、平成20年にLW・D等をベースにした「やごろう豚(どん)OX」を商標登録し、ともに曾於市ブランド認証品目として、食味や健康を重視した独自の飼料給与方法(マイロ・麦・米等)により、常に美味豚を追求し、流通・直売やホームページ(写真2)によるネット販売等を通じ「おいしい・サッパリ・甘い」と消費者の好評を得て来ている。

またここ数年、展示会(食肉産業展)にも出品し、銘柄ポーク部門で2007年農水省生産局長賞や2013年審査員特別賞を受賞している。

【6次産業化への取り組み】(写真3)

現在のレストラン「やごろう亭」および精肉部の開設は、まず銘柄豚が直売により地域の消費者から好まれ親しまれる美味豚を目指し、生産へ反映させるため開設し、一定の成果を上げている。

さらに一層地域に定着・貢献できる真の6次化に向け、新たな加工施設を併設する取り組みを始めている。

【農場HACCP認証取得への取り組み】

地域の直売のみならず都市部への安定的な流通・販売を継続するため、今後は安全・安心な銘柄豚生産の信頼を確保することが重要なことから、システム化された飼養衛生管理基準を基本とした「農場HACCP認証」を受けられるよう認証取得に向けた研修を開始し

(表) 経営実績(平成26年)

経営の概要	労働力員数(畜産・2000hr換算)	家族構成員	3.2人	
		従業員	43.6人	
	種雌豚平均飼養頭数		1,877.9頭	
	肥育豚平均飼養頭数		17,089頭	
	年間子豚出荷頭数		0頭	
	年間肉豚出荷頭数		34,009頭	
収益性	所得率(構成員)		7.8%	
	種雌豚1頭当たり売上原価		623,315円	
生産性	繁殖	種雌豚1頭当たり年間平均分娩回数	2.37回	
		種雌豚1頭当たり分娩子豚頭数	24.9頭	
		種雌豚1頭当たり子豚離乳頭数	18.9頭	
	肥育	種雌豚1頭当たり年間肉豚出荷頭数		18.1頭
		肥育豚事故率(離乳時からの事故率)		7.3%
		肥育開始時	日齢	27日
			体重	7kg
		肉豚出荷時	日齢	194日
			体重	117kg
		平均肥育日数		167日
		出荷肉豚1頭1日当たり増体重		0.659kg
		トータル飼料要求率		3.45
		肥育豚飼料要求率		2.88
		枝肉重量		75.8kg
		販売価格	肉豚1頭当たり平均価格	
枝肉1kg当たり平均価格			555円	
枝肉規格「上」以上適合率			52.1%	

ている。

地域に対する貢献

【耕畜連携の活動】

地域は、畑作物生産地域であり、お茶、深



(写真3) おおすみ弥五郎伝説の里にある「精肉部」

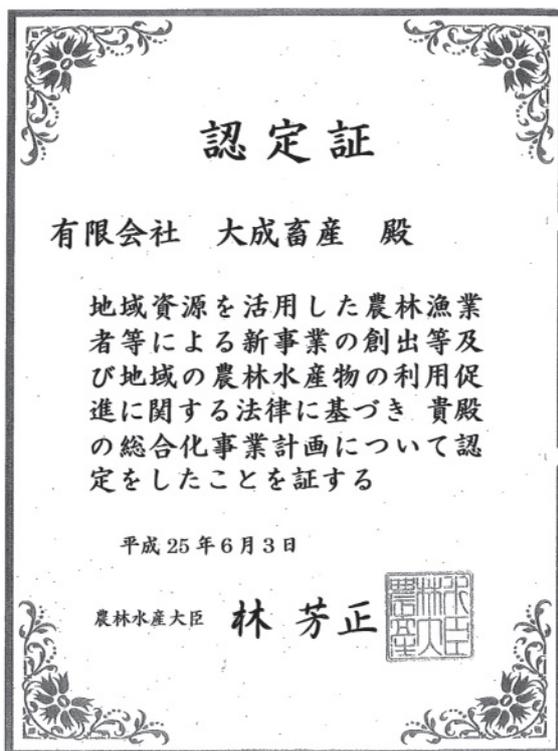
やごろう豚OXはオレイン酸たっぷり！



(写真2) (有)大成畜産 ホームページから (左)「やごろう豚」(右) やごろう豚OX

豚肉の風味や脂肪の品質は、給与飼料の内容に影響を受けると云われています。特に脂肪の硬さ色調については、肥育の仕上げ段階で給与する穀物原料による影響が強いと云う報告もあります。

やごろう豚は、穀類としてマイロ、麦類、米粉などを主体とした専用の配合飼料にパン粉、菓子粉乳酸菌などを添加して、サッパリとしてクセのない、美味しいお肉はオレイン酸を多く含み脂の旨味甘みを素直に感じられると思います。



(写真3) 6次産業化への取組み
「6次産業化・地産地消法に関する認定証」

ねぎ、白菜や飼料作物など耕種農家約50戸へ、乳酵素などを加えた悪臭の無い良質の堆肥の供給を通じた連携が図られており、常に堆肥の需要が供給を超える状況にある。

【畜産環境保全対策の確保】

浄化処理施設の管理・機能強化として、各

4農場とも浄化処理施設は連続攪拌爆気方式・回分方式により、トラブル防止に心がけ、切れ目のない維持管理と機能強化に努め、処理後の放流水は、常に規制値以下で推移している。

これまで、畜産公共事業として、平成16年度資源リサイクル畜産環境整備事業で縦型コンポスト2基、約7600万円、平成26年度同事業でロータリー攪拌機・浄化槽等約3億円を実施している。

肥育農場ごとに堆肥化処理施設として通気型及び無通気型堆肥保管施設を整備・拡充しており、住民等からの苦情は発生していない。また、一部肥育豚舎で酵素を活用した敷料を使用し良質堆肥の生産に努めている。

【地域の雇用への貢献】

畜産での雇用が困難な中、農大生の採用や地元のハローワークを通じた雇用促進・畜産後継者育成と福利厚生等の充実を図っている。

【地域の食育等への貢献】

道の駅「おおすみ弥五郎伝説の里」にレストラン「やごろう亭」及び直売所として「精

